

「美しさとどめておきたい」

独身や既婚の女性が一人でウエディングドレス姿の写真を撮影する「ソロウエディング」が注目されている。「女盛りの姿を残しておきたい」「婚活を続けるパワーをもらいたい」。さまざまな理由から、憧れの衣装に身を包んで写真に納まっている。(玉崎栄次)

結婚願望高まる

「一生、ウエディングドレスを着ることはないかも」。思うように婚活が進まず、気分も沈みがちだった会社員の女性(45)は今年3月、東京都杉並区には今年3月、思い切って結婚相談所「結婚情報センター ノッツェ」(東京都新宿区)が企画するソロウエディングに挑戦した。婚活の相談や恋愛カウンセリングに始まり、ドレス選び、ヘアメイク、写真撮影まで4人の専属スタッフが付き添う。所要時間は2時間で費用は3万24

「ソロウエディング」一人花嫁姿を写真に

00円。それで「花嫁」になれる。

「一人で楽しいのかな。最初はそんな不安もあったけれど、ドレスを着ると気持ちが高まって、結婚願望が強まった」。一人で暮らす部屋には、お気に入りの一枚を飾っているという。「自分を奮い立たせるお守りです」

「お一人さま」影響

ノッツェでは、昨年11月にソロウエディングの企画を始めた。数カ月で1度の開催だが、これまでに15人が参加。次回はまだ準備中だが、すでに10人以上の希望者がいるという。

望者がいるという。

同社によると、参加者の中心は30代後半から40代の婚活中の女性。「結婚の予定はないが、今のうちにウエディングドレス姿の写真を残しておきたい」という動機が多いという。同社セミナー事業部の芦沢早苗課長は「婚活には結婚できないかもしれないという不安がつきもの。非日常的な花嫁体験は婚活を続ける原動力になる」と説明する。

近年は「一人カラオケ」など趣味を一人で楽しむ「お一人さま」が増えており、自分だけのために写真撮影をすることに抵抗を感じる。

じない人も増えているようだ。

既婚・離婚者も

厚生労働白書(平成27年版)によると、50歳の時点で一度も結婚したことのない女性の割合は推計14・9%で、20年前の約3倍だ。ソロウエディングは「結婚しなくても花嫁衣装を着てみたい」という女性のニーズに込んでいる。

ソロウエディングは写真スタジオが手がける場合が多いが、その先駆けは、女性客専門の旅行会社「チェルカトラベル」(京都市)が26年に売り出した撮影プランだ。ドレス選びやブライド作り、写真撮影など1泊2日で費用は30万円を超える。和装も可能で、これま

でに約150人が利用した。

「結婚式を挙げなかった」「しゅうとめに気に入らないドレスを着させられた」。利用は独身者が多いが、既婚者や離婚した人にも広がっている。

4月に都内でソロウエディングを利用した会社員の女性(32)は「練馬区」は23歳で結婚したが、4年後に離婚。8歳と6歳の2人の男の子を育てるシングルマザーだ。元夫との婚礼写真は捨ててはいないが、しまッタきり。子供に見せるつもりもないという。

女性は「今回撮影した写真ならいつでも見せられる。子供たちも『ママきれい』と言ってくれて、満足です」と話している。



上「花嫁」だけでも自然な構図で撮影してもらえ
中臨場感のあるポーズも人気が高い
下モノクロ加工でアートな雰囲気を出した1枚
(結婚情報センター ノッツェ提供)

